



[トップ](#) [暮らしの情報](#) [文化・スポーツ](#) [生涯学習・社会教育](#)

ひので映画大使最新版

[2018年6月13日]

第92回映画大使「ラプラスの魔女」

- ・ 期日 平成30年5月10日(木曜日) ※公開1週目
- ・ 場所 イオンシネマ日の出

作品紹介

2015年に執筆30周年を迎えたベストセラー作家東野圭吾の同名30周年記念作品を、『ヤッターマン』の三池崇史監督が映画化した驚きと衝撃の規格外サスペンス・ミステリー。原作者である東野は、本作の原作を「これまでの私の小説をぶっ壊してみたかった」と話していた。

謎多き事件の調査に当たる生真面目な大学教授・青江修介を、『ヤッターマン』で三池監督でもタッグを組んだ、櫻井 翔が、自然現象を予言するヒロイン・羽原円華には、広瀬すずが、円華が探している失踪中の青年・甘粕謙人を、福士蒼汰が演じ、人気と実力を兼ねそろえる3人が担当した。

その他にも、豊川悦司、玉木 宏、リリー・フランキー、高嶋政伸、檀 れい、志田未来、佐藤江梨子、TAOといった日本を代表するキャストが集結し、脇を固める。

離れた場所で二つの死亡事件が連続して発生する。とうてい実行不可能と思われる連続殺人事件の謎に挑む地球化学教授が、自然現象を予言する謎めいたヒロインの存在に導かれて辿り着く驚愕の真実を壮大かつ斬新な映像で描き出す。



(C)2018 映画「ラプラスの魔女」製作委員会

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

映画大使の「第一声！」

- ★ 豊川悦司さんの演技が凄かったですね！
- ★ 広瀬すずさんと福士蒼汰さんが輝いていましたね！
- ★ 凄くいい作品だったと思います！
- ★ リリー・フランキーさんがこのような演技をされるのだなと思いましたね！
- ★ 「ラプラスの悪魔」という言葉の意味をずっと気になりながら観ていました！



今回参加された、映画大使の皆さんです！

映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

「ラプラスの悪魔」という言葉の意味をずっと気になりながら観ていました。

話は二人の超能力を持った人を中心に進んでいましたので、現実離れをしているのかなとは思いましたが、この作品で言いたかった事は「世界は優秀な人だけが作っているわけではなく、凡人も作っているのだ」という事ではないかと思いました。私もそのとおりだと思いましたね。

Bさん

この作品は、探偵ものであると思っていたら、通常はできないような自然の予知をするなど、いろいろな要素がある作品でした。

豊川悦司さんの演技が凄かったですね。

話が進んで行くうちに豊川さんの演じる甘粕家族の本当の姿がわかってくるのですが、少なくともどの家族も隠しておきたい事はあると思うのですが、甘粕家の秘密は凄かったです。

Cさん

硫化水素と気象現象とが相まって殺人が起こる事が最初おこりましたが、そこから作品に引き込まれていきましたね。

Dさん

豊川悦司さん演じる甘粕が豹変するシーンは、度肝を抜かれる思いをしました。凄いなと思いましたね。

広瀬すずさんと福士蒼汰さんが輝いていた事と、役にはまっている事に、びっくりしましたね。お二人とも凄く成長されていてよかったです。

Eさん

私は、東野圭吾さんの作品を読むのですが、この作品はいつも私が読んでいる作品とは違うなと思いました。

リリー・フランキーさんがこのような演技をされるのだなと思いましたね。

Fさん

桜井翔さんが地質学者で大学教授の役をされていましたが、私は物理があまり好きではないのですが、勉強してみたいと思いました。この作品の中の桜井さん授業が、意味があるような授業なのかなと思いましたので。

広瀬すずさんの目がちょっと獣のようで、何かを悟っているような目をしていたので、「え、この子が魔女なのか？」という事と、「どのような魔女なのか？」という事をずっと考えながら観ていました。

未来はわからない方がいいかなと思いましたね。宝くじの当たりがわかるという事は捨てがたいのですが。

凄くいい作品だったと思います。

Gさん

私はいつも役者の演技中心に楽しみながら観ています。

桜井翔さんの演技を観るのは初めてだったのですが、今回の作品の役にはまっているなと感じました。大学の授業のシーンや自分だけの趣味の世界など、イイ感じでしたね。

広瀬すずさんはいろいろな作品に出演されていて、『ちはやふる』のような「きゃぴきゃぴ」した役も、この作品のような少し影を帯びて何かを背負っているような役も、どちらもとても上手だなと思って観ていました。

福士蒼汰さんは、この作品のような怒りや悲しみの演技もされるのだなと驚きましたね。

私が好きなのは佐藤江梨子さんで、かつてはグラビアアイドルのみをされているというイメージでしたが、最近は演技でとてもよい評価をされている方で、凄いなと思います。「メイクなんかなしで、勝負」のような体当たり演技をされているので、最近凄く気になっています。

豊川悦司さんは、現在朝ドラにも出演されているのですが、朝ドラのおちゃめな漫画家の役とは全然違って、むしろこの作品の役の方が本来の姿で本領発揮という感じがかなと思いますね。

それぞれの役者が、役にはまっていたと思いますし、高嶋政伸さんの不気味な役など、役者の演技にずっと引き込まれて観ていました。

映画館が、小聲などがあちこちから聞こえる設定になっていて凄いなと思いましたね。

Hさん

この作品を観て、人は自然にいたらいいという事がこの作品の言いたい事なのかなと思いました。私は未来が見えなくてよかったなと思いました。夢が持てますので。

この作品の結末は、奥が深いのかなと感じました。

あまり能力はない方が幸せに生きられるのかなと思いましたね。

Iさん

未来が予想できるような超人類ができるってはいるのですが、超人類ができた時に未来を予想できるから良い方向に変えられるかという良い方向に変えられていないと、この作品で言いたいのかなと感じました。

作品の内容(印象に残ったシーンなど)

・音楽がすべてのシーンで効果的でしたね。特にシューベルトの「冬の旅」が凄く不安な気持ちをかきたてて。

・あんなに飛ぶ紙飛行機の折り方が知りたかったですね。

・この作品を観て楽しかったですね。

まとめ

この作品の原作は、数多くのベストセラー作品や、新参者、ガリレオのような人気シリーズなどを世に送り出してきた東野圭吾が、2015年に執筆30周年を迎え、30周年作品として書いた作品。東野自身が「これまでの私の小説をぶっ壊してみたかった」というように今までの作品と一線を画している。ただの推理小説にとどまらず、プラスαを多く織り込み壮大な話としている。

そのような原作を映像化するとどうしても、その作品のクオリティーが保てないところを、鬼才、三池崇史監督の手腕と、桜井翔、広瀬すず、福士蒼汰を初め、全てのキャストの個性や演技力で素晴らしい作品としている。

伏線も多く、見せ場のシーンでの斬新な映像表現、映像の明暗の表現などが光るこの作品は、東野圭吾ファンの方はもとより多くの方におすすめの作品です。

劇場の大スクリーンで是非、ご覧ください！

映画大使では、年代も性別も違う方達が、それぞれ意見を出し合いひとつの映画について話し合うという、日ごろできない経験をする事が出来ます。映画を観て自分がこう思っただけではなく、年齢や経験などの違う人の目線で観たことを聞くことにより、違った発見があるので、ひとつの映画が何倍にも広がって行きます。

今後も「ひので映画大使」にご期待ください！！

関連ページ

- ・ [これまでのひので映画大使](#)
- ・ [ひので映画大使のトップに戻る](#)

ご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

役に立った どちらともいえない 役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

見つけやすかった どちらともいえない 見つけにくかった

送信

お問い合わせ

東京都 日の出町 文化スポーツ課 社会教育係
電話: 042-597-0511(内線541) ファクス: 042-597-6698

ひので映画大使最新版への別ルート

[トップ](#) [新着情報](#)

Copyright (C) Hinode Town All Rights Reserved.